

ビジネス書コーナー 新着リスト

2021年4-5月受入れ分

新刊PICKUP

『モノづくり中部
技術・技能自慢
2021年版』

中部地方はモノづくり産業の一大集積地として知られていますが、こらは正に広い分野での関わりを感じる1冊です。「こんな会社があるんだ」・「道路沿いのあの会社はこんな商品を作っていたんだ」といった、新たな発見があるかもしれません。



書名	著者	出版社	請求記号
おとなの教養 3	池上彰／著	NHK出版	002/1/3
行動経済学	阿部誠／監修	新星出版社	331/ア
組織が変わる	宇田川元一／著	ダイヤモンド社	336.3/ウ
テレワーク時代のマネジメントの	高橋豊／著	ダイヤモンド社	336.4/タ
不況に対応する「雇用調整」の実務	布施直春／著	中央経済社	336.4/フ
オンライン採用	伊達洋駆／著	日本能率協会マネ	336.42/ダ
1分で話せ 2	伊藤羊一／著	SBクリエイティブ	336.49/1/2
できるはんこレス入門	清水理史／著	インプレス	336.55/シ
Google Workspace完全マニュアル	桑名由美／著	秀和システム	336.57/ク
億万長者だけが知っている教養とし	ヒュー・バーカー／著	ダイヤモンド社	338.01/ハ
テレワークの腰痛・肩こりは自分で	酒井慎太郎／著	学研プラス	493.6/サ
モノづくり中部技術・技能自慢 2021年版	日刊工業新聞特別取材 班／編	日刊工業新聞社	509.21/ニ
マスコミ電話帳	宣伝会議書籍編集部／	宣伝会議	R6

データベース のご案内

この度、中央図書館では新たにデータベースを導入しました。場所は、4階のビジネス情報コーナー席です。ご利用の際は、座席の予約が必要となります。サービスデスクスタッフにお気軽にお尋ねください。

Business Topics

Vol.
48



ビッグデータ と 活用事例

新型コロナウイルスがまだ、終息とは程遠い現在ですが、この感染症にもビッグデータが使われているのをご存じでしょうか？例えば人の動きや行動により感染拡大予測をしたり、世界中のウイルスの型の情報収集によるワクチン開発など、人間の活動や医療の現場でもビッグデータは活躍中なのです。2010年ごろから様々な分野で取り上げられるようになったビッグデータは、その範囲をAI（人工知能）やDX（デジタルトランスフォーメーション）といった領域まで巻き込んで益々拡大の様相となっています。今回、ビッグデータとビジネスについてやさしく解説した図書を紹介します。

■リレーコラム 第2回

小牧市中央図書館主幹 山田 久

「国立国会図書館のWebサービス」

国立国会図書館は、これまでに蓄積したデータを活用し、さまざまなWebサービスを提供しています。ここでは、誰でも利用できる代表的な5つのサービスをご紹介します。①国会図書館オンライン：国会図書館の蔵書検索、②国立国会図書館サーチ：全国の図書館やデジタルコンテンツの検索、③リサーチ・ナビ：調べものに役立つデータベース等の検索、④レファレンス協同データベース：全国の図書館がレファレンス事例を共有して活用できるもの、⑤国立国会図書館デジタルコレクション：国会図書館のデジタル資料の検索、閲覧サービス。一昔前では想像できなかった夢のようなサービスを提供しているのです。

■Content■

- ・リレーコラム
- ・ビッグデータの活用事例
- ・紹介図書
- ・新着図書リスト
- ・新刊ピックアップ

2021年7月1日発行
(隔月発行)

編集・発行
小牧市中央図書館
0568-73-9951

**変貌する恋愛と結婚 データで読む平成**

小林盾・川端健嗣／編 新曜社 (367.4/1)



ビッグデータは恋愛までも支配しようとしています。私たちは、偶然から人と出会い、恋愛し、結婚という過程を経るものだと思いがちですが、ビッグデータは傾向やイデオロギー、社会現象に切り込み、おおよその結論を導き出そうとしています。それは、現在の格差、貧困、雇用形態といった社会のひずみと密接に関係していることがよくわかります。

私たちはこのデータの結果を通して、もしかしたら将来の自分自身の生き方を予想できてしまうのかもしれませんが、それは、一見、面白みのない事象かもしれませんが、一方、データは生き方の多様性がますます広がりつつあるという結果も表しています。是非、若い人にも読んでいただきたい1冊です。

**ビッグデータ探偵団**

講談社現代新書 (007.3/7)

安宅和人・池宮伸次 (Yahoo!ビッグデータレポートチーム)／著 講談社

ビッグデータ探偵団安宅和人・池宮伸次
Yahoo!ビッグデータレポートチーム

本書はヤフーという検索エンジンを通して「ビッグデータとはこんなに面白い」ということを詳しく紹介したものです。例えば、検索値1つとっても面白い事象を表すことがわかります。新社会人の悩み、新人ママの赤ちゃんへの思いなど、その行動様式はビッグデータの結果を通して赤裸々に現れます。

ビッグデータは東京と地方の地理的距離についても面白い事象を表しています。地理的距離とインフラを使った距離は違うということは何となくわかっていますが、実際に計算し、可視化することで、非常にわかりやすい地図となっていくます。また、災害救助や選挙にもビッグデータを使って予測することで私たちの生活に密着したものとなっています。

読みだしたら止まらない面白さです。

**マインドハッキング あなたの感情を支配し行動を操るソーシャルメディア**

クリストファー・ワイリー／著 牧野洋／訳 新潮社 (314.89/7)



著者はかつて軍事心理戦を得意とするコンサルティング会社の社員であり、2016年のアメリカ大統領選挙においてトランプ氏に有利な世論操作が行われたことを告発したデータサイエンティストです。その内容には、驚くべきものがあり、まるで諜報員も顔負けの活動が行われていたことが書かれています。そして、著者はそれが法律の追いつかないスピードで行われているということと、ビッグデータがIT事業者のモラル感によって、悪事に使われやすいということを警告しています。

日本においても、この事件は無関係ではありません。GAFという巨大企業も密接に関係するこの事件に、私たちは今や社会インフラとなったソーシャルメディアの取り扱いに今一度注視することが必要かと思われます。ビッグデータが兵器にもなりうるということを考えさせられる1冊です。

**レンブラントの身震い**

マーカス・デュ・ソートイ／著 富永星／訳 新潮社 (007.13/デ)



2016年にマイクロソフト社とオランダの美術館などが協力施行したAIプロジェクト「The Next Rembrandt」をご記憶の方も多いかと思います。このプロジェクトでAIは、レンブラントの全作品を記憶、記録、解析することであたかもレンブラントが描いたかのようなタッチを実現し、人工知能が芸術という概念に踏み込んだことで当時話題になりました。

本書は、生粋の数学者である筆者が旅する、人とAIを巡る思考の記録です。データとして数値化された芸術、学習する機械について、筆者はどう考察するのでしょうか。そして、レンブラントはなぜ、身震いするのでしょうか。

上質の海外作品の選出に定評ある新潮社「クレストブックス」シリーズでも極めて珍しい、情報科学ノンフィクション、ぜひ手にとってみてください。

**データサイエンティストの育て方**

斉藤史朗／著 海文堂出版 (007.6/サ)



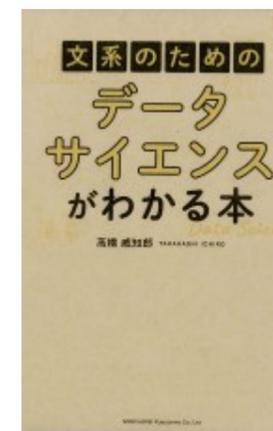
ビッグデータやAIを駆使してビジネスマネジメントや技術革新等に活かすデータサイエンティストという仕事があります。

統計分析のエキスパートであり、ITエンジニアとしての力量も必要で、市場トレンドや世相などにも精通しているデータサイエンティストは、スマートフォンの普及により急速な母数の拡大をみせる現代の情報社会において、これまで以上に欠かせない存在になってきているといえるでしょう。

筆者は、まだこの職種が寡聞な時代に従事し、また、後進育英にも努めてきた人です。長らくデータを見極め、活用してきた筆者が語る「育てる」喜びと苦労は、対象が人であろうとなかろうと同じなのだと感じます。

**文系のためのデータサイエンスがわかる本**

高橋威知郎／著 総合法令出版 (336.17/タ)



日々、大量に生み出されている“ビッグデータ”。それらを上手く活用しなければ意味がありません。本書はデータとドメインを結び付けて、価値を創造するデータサイエンス技術と、その人材であるデータサイエンティストの存在の大切さを唱えています。データサイエンティストと聞くと、特別なスキルを持った人物イメージがありますが、実際は、いろいろなスキルを持った人たちとチームを組み、情報の収集や分析を行い、成果へ結びつける橋渡しといった役目を担っています。例えば、会社内で、業務上、ビッグデータをうまく使いこなせない場合、データサイエンティストは様々な提案をしていきます。その結果、担当者は業務改善やさらなる効率化の提案が可能となるのです。本書では、いろいろな事例を紹介していて、「このような方法もあったのか！」といった新たな発見が見つかるかもしれません。

文系の方にわかりやすく書かれているため、「情報系はちょっと・・・」という人やデータを活用する前段階の人など、広い範囲の方にお勧めの本です。